

# 砂山の

# お地藏さん

平成十一年十月五日号

元吉原地区鈴川町の坂の途中に小さなお堂があります。そのお堂の中に、高さ五十センチメートルほどの石のお地藏さんがおさまっていて、地域の人たちから「砂山のお地藏さん」と呼ばれ親しまれています。

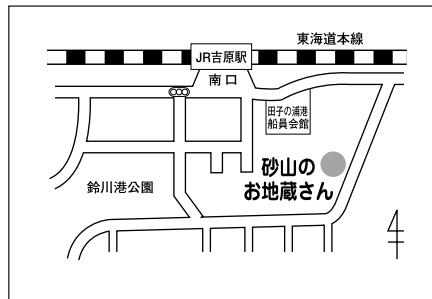
今回は、この「砂山のお地藏さん」についてご紹介します。

砂山のお地藏さんは、今ではお堂の中におさまっていますが、昔は雨ざらしで、大きな松の木の根元にひとりぼっちで毎日道を通る

人を眺めていました。

あるやみの晩のことです。吉原湊へ着いた伊勢船の船頭が二人、元吉原の宿場まで鼻うたまじりで行こうとしましたが、道が暗くて困っていました。

すると前の方から紺がすりを着た小僧がやってきて「こっち、こっち」と言うのでその後について行きました。ところが小僧の姿はいつの間にか消えて、二人はアシの生えているどぶの中をザブザブ歩いていました。手足が冷たいのでようやく気がついてどぶの中からはい出した二人は、「あの小僧め、地藏が化けたに違いない。ちくしょうめ！」と悔しがり





お堂と砂山の  
お地藏さん



ましたが後の祭りでした。  
こんな人を化かす話も伝えられているお地藏さんですが、いつのころからか、このお地藏さんは人の願いをよく聞いてくれるお地藏さんだということで、お参りする人が多くなつたということです。

鈴川区管理委員会委員長

鈴木良平りょうへいさん（鈴川町）

砂山のお地藏さんは、願い事を聞いてくれるお地藏さんとして知られていて、「いいなり地藏」とも呼ばれています。

私が小学校低学年のころまで行われていたお地藏さんのお祭りは、「火渡り」の祭りとして有名でしたね。お堂の前の広場でまきをたき、富士宮市にある本門寺から来た山伏の修行者が、火を治めるよう祈きと禱とうしてくれました。そして、火の上を村じゅうの人たちがはだしで渡って無病息災を願ったものです。その後戦争などでお祭りは途絶えてしまいました。地域ちいきの古いお祭りを子どもたちに伝えていこうと、平成六年にお堂を修復したのを機に、地域手づくりのお祭りとして復活しました。いつかは火渡りも復活できたらいいなと思っています。